

博士からは逃げられない

シバ・ティレアス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ただネタとして書いた。

博士から逃げる？ 逃げられるわけないじゃん (白目)

目次

博士からは逃げられない

—

1

博士からは逃げられない

拝啓、お父様、お母様、そして友達みんな。僕は、この世界で殺される可能性が高すぎてヤバイです。

「どうしたのですか？ お腹でも空きましたか？」

目の前にいる彼女。ラケル・クラディウスさ「さん付けしなくても大丈夫ですよ？」・・・ラケル博士「遠慮しなくてもよろしいのですよ？ 別に、貴方が私のことを呼び捨てにしたからって、怒ることなんてありませんからね」・・・ラケルさん「まあ、それで今は妥協しておきましょう」が俺に猛アタックしてくる、というのが殺されそうでヤバイ、という理由に繋がってくる。

「貴方が殺される事はありませんよ？ その前に私が・・・フフフフフ」

・・・もう、ね？ ラケルさんが好いてくるということは、博士の内一人が敵視してくるのは確実だし、レア博士から良くないモノとして見られるだろうし。

いつ殺されるかドキドキしながら生きてます「あら、私にドキドキしてくれているのですか？ フフツ、とても嬉しいです」もうやめて俺のライフがゼロになるから。

「それに、そんな心配は無用ですよ？ クジヨウ博士とお姉様 心配の種は無くなりましたので」

そう言っただけで差し出された携帯端末を見せてもらおうと、ベッドの中で、作中では見ることがなかった穏やかな笑みのまま動かないクジヨウ博士と、俺の写真を見て「新しい家族・・・フフツ」と微笑んでいるレア博士。

え、ええー・・・うつそだろ？ 根回し終わってる？ しかもクジヨウ博士がオワタ？ R A G E B U R S Tはやったことないけど、友達から聞いた話では、クジヨウ博士が螺旋の樹にナニカしてその結果ナニカが起こったとしか知らない。けど、それだけでもクジヨウ博士が重要な役割をしていると分かる。

